

## Symptoms and Upper Gastrointestinal Mucosal Injury Associated with Bisphosphonate Therapy

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 果奈 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00032486">https://doi.org/10.20780/00032486</a>

# 主論文の要旨

Symptoms and Upper Gastrointestinal Mucosal Injury Associated with Bisphosphonate Therapy

(ビスフォスフォネート製剤による自覚症状と上部消化管粘膜障害に関する研究)

東京女子医科大学 消化器内科学教室

(指導：徳重克年教授)

山本 果奈

Internal Medicine DOI: 10.2169/internalmedicine.1271-18

(Advance Publication by J-STAGE: January 10, 2019) に掲載

## 【要 旨】

ビスフォスフォネート製剤 (BP) 服用者の自覚症状と上部消化管粘膜障害の現況を明らかにすることを目的とした。BP を 1 ヶ月以上内服している 221 例を対象に F スケール問診票を用い自覚症状を調査し、上部消化管内視鏡検査で食道粘膜障害の程度と胃十二指腸潰瘍の有無を調べ、BP の種類、製剤、併用薬剤別に比較検討を行った。F スケール全体スコアは 4 (0-34) 点、酸逆流スコアは 2 (0-20) 点、運動不全スコアは 2 (0-16) 点であった。内視鏡所見は Los Angeles 分類 grade A 以上の食道粘膜障害 22 例 (10.0%)、胃十二指腸潰瘍 9 例 (4.1%) であった。BP の種類別比較で、4 週 1 回製剤のミノドロン酸の運動不全スコアが 0 (0-11) 点と有意に低値であった。併用薬剤では抗血栓薬と NSAIDs 併用例で運動不全スコアが 6 (1-11) 点と有意に高く、粘膜障害の頻度も有意に高かった。BP 服用者における有害な自覚症状や上部消化管粘膜障害の頻度や程度は必ずしも高くはなかった。しかし、抗血栓薬と NSAIDs を併用することで自覚症状や粘膜障害の頻度が高く、多剤服用時には注意が必要である。BP の種類では、4 週 1 回製剤のミノドロン酸で自覚症状が軽いため、内服薬として有用であると考えられた。